

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・文章の内容を読み取る力は説明的・文学的とも力が伸びているので、話し合い活動で自分と違うものの見方に気づかせ考えを深め、活用力を高めている。
- ・ムーブノートを活用し、互いに刺激を与えあい、文章力を磨いた。

(2) 課題

- ・文法事項や語句の繰り返し学習を増やして、基礎力として定着を目指す。
- ・主体的に学ぶ力をより伸ばすため、発問やワークシートを工夫し、二極化を防ぐ。
- ・記述問題で具体的に自分の考えを書けるように、日頃から考えを表すような授業をする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	基礎・活用、観点別正答率とも目標値・区、全国平均を上回っている。下回っているものは無いが、連用修飾語についてなどの文法は復習が必要である。		
第2学年	基礎・活用、観点別正答率とも目標値・区、全国平均を上回っている。説明的文章や文学的文章の読み取り△、文章を書く△、聞き取り▼、漢字の書き取り▼、と読み取ることができる。	基礎・活用とも平均正答率は目標値を上回っているが、区全国平均正答率を上回ることとはできなかった。文学的文章の読み取りの他は、内容別正答率が区全国平均に届かなかった。	
第3学年	基礎・活用、観点別正答率とも目標値・区、全国平均を上回り順調に伸びている。問題情報からは漢字力△ 文学的文章の読み△ 論理展開に沿って聞く▼ 助動詞の理解▼が読み取れる。	活用力は目標値・区全国平均とも上回ったが、基礎力が二極化した。文法・語句▼言葉の特徴使い方▼言語文化▼観点別知識・技能 全国－4.2	基礎・活用とも目標値・全国平均を上回っている。内容別正答率では、文法語句に関する事項がわずかに全国平均に届かなかった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読みは理解できているが書きになると読みほど正答ができていない。漢字や文法に関してはくり返し学習を行っていく。	説明的文章や文学的文章の読み取りは成果を上げることができた。自分の考えを明確にして書く問題は個人差があると思う。それぞれの力を底上げしていく。	自分の考えを具体的に書く練習はしてきているため、目標値を上回っている。個人差がでないようにしていきたい。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み、歴史的仮名遣いや故事成語については理解できているようだが、漢字の書きや語句において定着が不十分な点がある。	説明的文章や文学的文章の読み取りは成果を上げることができた。また、昨年度課題であった文章を書く力の伸びが見られた。	話の内容を聞いて考えを記述する問題が目標値を下回っているため、養成が必要である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語彙・漢字の知識は順調についている。助動詞の学習は既習でなかったため、現在では理解できている。	特に文学的な文章の読み、記述力に大きな伸びが見られる。話を聞く力は養成が必要である。	記述問題への取り組みは1年次から養成してきたため、力のある生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字テストを毎月行い、間違っている問題は複数書かせるなど漢字に触れる機会を設ける。文法に関してはくり返し行っていく。	自分の考えをもち、人と共有しさらに自分の考えを深める授業を意識する。ワークシートやノート、クロムブックを単元毎に使い分けていく。	言葉に触れる楽しみを増やすためにクロムブックも使っていく。他者の良いところを取り入れられるようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字練習ノートや文法問題集を使用して繰り返し取り組みませ小テストなどで定着を図る。また、古典の暗唱テストに取り組ませ親しませる。	自分の意見や考えを書き、他者と意見交流することで読みを深める活動を行う。また、ワークシートを工夫して、自分の考えを書く表現のパターンを定着させる。	授業規律を確立し、目の前の課題に真剣に取り組むことや自分の考えを交流できる雰囲気をつくっていく。また、提出物の提出期限を守ることや暗唱に積極的に取り組むことなど呼びかける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字力養成、古典暗唱、語彙力の養成は継続して行っていく。受験を意識した基礎的な語彙力定着をワークシート等で重ねる。	小グループでワークシートを進める学習を続け、違う視点に気づき考える機会を増やし、思考力を鍛える。書く機会を増やし記述力を伸ばす。	知る楽しみ、考える楽しみを増やすワークシートを工夫する。クロムブックでカードをアップし人の見方との違いに気づかせる。暗唱に取り組ませ達成感を味わわせる。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・興味関心を持たせる教材や発問を意識することで、考える力を高め、知識の習得や考察力の向上につながった。
- ・ICTの活用を積極的に行うことで、資料活用や思考力の向上に一定の効果があつた。

(2) 課題

- ・定期的にグループワークを行い、生徒同士の意見交換を行っているが、ICTの活用により、さらに積極的に行っていく必要がある。
- ・社会科に苦手意識のある生徒に対しての個別の対応や配慮が行き届かず、学力の二極化という課題が残った。
- ・高学年になるほど、低学年時の学習内容の正答率が悪くなっている。家庭学習を含め学習習慣の定着を図っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値を下回ったが、区平均正答率よりも0.1ポイント高かった。「日本国憲法」が著しく正答率が低かったのに対し、「世界の中の日本」は区、全国より5ポイント以上高かった。		
第2学年	地理・歴史分野ともに、目標値を下回り、区平均正答率も下回っている。	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。「我が国の政治」以外は目標値をわずかに下回った。	
第3学年	地理・歴史分野ともに、目標値を下回ったが、区平均正答率は上回った。「明治時代が」特に低く、全国、区ともに下回った。	地理・歴史分野の中ですべての分野において区平均正答率を上回っている。しかし、全国と比較するとどの分野も数値が下回っている。	区平均正答率に分野ごとに差がでてしまった。特に「我が国の農業や水産業」は目標値を大幅に下回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より低かった。	目標値より低かったが、区・全国平均正答率より高かった。	目標値をわずかに下回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。	目標値をわずかに下回った。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より低かった。	目標値より低かった。	目標値より低かった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎的な用語の理解を深め、小テストなどを通して知識を獲得する。また、資料集や地図帳を丁寧に活用する。	他の意見と自分の意見を比較することでこの観点の力を伸ばしていきたい。また、ICTの活用を通して、クラス内での情報共有をより積極的に行っていきたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できていない生徒も一定数おり、勝テストなどの反復練習を行っていきたい。また、資料の比較や活用場面を多く作っていきたい。	生徒に考えさせる資料や興味を持たせる発問を心がけるとともに、ICTを活用することでより深い学びにつなげていきたい。	分野ごとに自己評価や相互評価を行わせることで、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を習得できている生徒が多いことから、それらの知識を活用して、「思考・判断・表現」などの他の観点の伸長につなげる。	話し合い活動やICTを活用することで、自分の考えだけでなく、他者の考えを理解し、発展的な考えを構築する授業を展開していく。	単元ごとにまとめを行うことで主体的に学習に取り組む態度を身につけさせたい。また、時事問題などにも触れ、社会に興味関心を持たせたい。

(様式例)

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 全学年で全国正答率を全項目で上回ることができた。
- ・ 定期考査では極端に低い生徒の割合は昨年度よりも低くなっている。

(2) 課題

- ・ 全学年ともに「知識・技能」に比べて「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の観点が低くなっている。
- ・ 定期考査でも「思考・判断・表現」の得点状況が良くない状況にある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全国正答率と比較すると、正答率は5.1ポイント高かった。		
第2学年	全国正答率と比較すると、正答率は2.1ポイント高かった。	全国正答率と比較すると正答率は1.8ポイント低かった。	
第3学年	全国正答率と比較すると、正答率は11.4ポイント高かった。	全国正答率と比較すると正答率は6ポイント程度高かった。	全国正答率と比較すると正答率は2ポイント程度高かった。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は5.1ポイント高かった。「小数・分数」の計算では全国平均と同程度であるが、それ以外の領域で全国平均を上回っている。	全国正答率と比較すると正答率は5.4ポイント高かった。「データの活用」の情報を正しく読み取る問題では同程度であるが、それ以外の領域で全国平均を上回っている。	全国正答率と比較すると正答率は5.4ポイント高かった。百分率の問題では全国平均を下回ったが、それ以外の領域で全国平均を上回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は2.8ポイント高かった。「関数」以外の領域では大きく全国平均を上回っている問題が多い。	全国正答率と比較すると正答率は0.6ポイント低かった。論理的に説明する問題を苦手とする傾向が見られる。	全国正答率と比較すると正答率は0.6ポイント高かった。直感で答えられる問題には取り組む様子が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全国正答率と比較すると正答率は12.5ポイント程度高かった。計算で大きく全国平均を上回っている反面、関数で全国平均を下回っている問題もあった。	全国正答率と比較すると正答率は8.7ポイント程度高かった。しかし、図形の証明問題では全国平均・目標値を下回る問題もあった。	全国正答率と比較すると正答率は7.9ポイント程度高かった。しかし、図形の証明問題では全国平均・目標値を下回る問題もあった。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小数・分数の計算に苦手意識がみられる。基礎的な問題を反復して行い、計算力の向上を目指す。	資料の整理の単元では、より丁寧な指導が必要になってくる。多くの問題を解き、慣れていくことも必要になってくる。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、全員が同じ目標に向かって意見をもって考え、発言することができる環境をつくる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
計算力のさらなる向上が必須である。適宜プリント等で練習機会を増やす。	習熟度別少人数授業を展開することで、能力に応じた事象を用いて少しずつ学力の向上を目指す。また、根拠を示して説明する力を養う。	習熟度別少人数授業を展開することで、それぞれのレベルに応じた学習内容にし、個々の目標を実現するために考え、発言することができる環境をつくる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数の基礎知識が抜けているところがあるので、復習する時間を設け、基礎基本の確認・再定着を図る	問題を解けるだけでなく、背景までしっかりと理解をし、どうしてそうなるかを説明できる力をつける。習熟度に合わせて指導を意識する。	習熟度に合わせ、身近な事象をもとに考える課題を設定する。それぞれのレベルに合わせて助言を行い、積極的に意見交換や考えることができるような環境を作る

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2・3学年において、前年度からの課題であった解答形式が「記述」のものについて、「活用」「思考」「エネルギー」のものは、目標値を大きく上回ることができた。「日常生活と理科との関連を考える」「他者との対話や他者の考えや表現に触れる機会を増やす」「予想を立てて観察・実験を行い、結果から考察し、自分の言葉で表現する機会を設け、表現がよりよいものとなるようフィードバックを行う」等の取り組みの成果が出てきている。今後も粘り強く指導をしていきたい。

(2) 課題

- ・全学年で「知識・技能」の目標値を上回ることができなかった。既習事項の復習の機会を設け、他分野・他学年とのつながりを意識させるなど、知識や技能の必要感をもたせる授業展開をさらに工夫していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	観点別正答率では、「知識・技能」の観点で目標値を下回った。領域別正答率では、「物質・エネルギー」は目標値を下回ったが、「生命・地球」では目標値を上回った。内容別正答率では、「水よう液の性質」において目標値を大きく下回った。 (第1学年時)		
第2学年	観点別正答率、領域別正答率で、すべてにおいて目標値を下回った。内容別正答率では、5つの項目で、目標値を上回ることができた。「音の性質」では、記述問題で目標値より、12ポイント上回っていた。 (第2学年時)	観点別正答率では、すべての観点で目標値を下回った。領域別正答率では、「物質・エネルギー」「生命・地球」の両方で目標値を下回った。内容別正答率では、「大地のつくりと変化」は目標値を上回った。 (第1学年時)	
第3学年	観点別・領域別正答率では、すべての観点・領域で目標値を下回った。問題の内容別正答率では、「電流の正体」で目標値を大きく上回り、「化学変化」で目標値を大きく下回った。 (第3学年時)	観点別正答率では、知識・技能は目標値を下回ったが、その他2つは目標値をわずかに上回った。領域別正答率では、「エネルギー」「粒子」は目標値を上回ったが、「生命」「地球」で目標値を下回った。 (第2学年時)	目標値に対して2つの観点別正答率、領域別正答率、問題の内容別正答率でトータル+0.9であった。ただし、生物関係の正答率の低さが合計のポイント数を押し下げている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の平均を上回ることができているが、目標値を上回ることができなかった。「動物や植物のからだのつくりとはたらき」「水よう液の性質」「電気の利用」に関する問題で目標値を大きく下回っている。	問いに対して説明する、記述形式の問題が目標値に対して正答率が低く、課題が見られる。選択式・短答式の問題については、目標値に対して正答率は少し上回るか、大きく上回る結果となっている。	区の平均も目標値も上回ることができている。理科に対して苦手意識がある生徒が一定数いる一方で、授業に関してはどのクラスも意欲的に発言し、課題に対して協働して学ぶ姿勢を見せる生徒が多い。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「水溶液の性質」が特に課題があった。全体として、基本的な知識や法則の理解、実験から求める計算について、しっかりと定着しておらず課題がある。	「音の性質」の計算問題が大きく目標値を下回っている。これまで学習した内容を活用して、実験装置の仕組みを理解し、測定内容の把握をすることに課題がある。「力の性質」については、実験を観察・実験・計算練習を繰り返し行った成果がでた。	目標値より△1.5 だった。実験や観察に積極的に参加したり、意見を共有したりすることができるが、自ら予想や仮説を立て、さらに内容について深め、解決していく姿勢に課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度は区平均を下回っていたが、今年度は区平均を上回っており、着実に力がついてきている。分野別では、2年化学や気象についての基礎知識に課題がある。一方で、学習効果測定を行ったときの学習内容と大きく関連している内容について目標値を10ポイント以上上回った。一方で、学習してから時間がたっている内容については、誤答が多く、課題がみられる。	昨年度に引き続き、区平均を上回っている。昨年度の課題であった解答形式が「記述式」のものうち、学習効果測定を行ったときの学習内容と大きく関連している内容について目標値を10ポイント以上上回った。一方で、学習してから時間がたっている内容については、誤答が多く、課題がみられる。	今年度は区平均を下回った。誤答が多かったのは、「ガスバーナーの使い方」や「なぜそのようになるのか」など、知識・技能や思考との複合観点による問いであった。授業では、自ら予想や仮説を立て、観察・実験を行ったり、仲間との対話を通して、課題を解決しようとする生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日々の復習を大切に、基本は家庭学習をベースに授業内でもワークへの取り組みの声掛けをする。小学校からの内容別で正答率が低い単元に関しては丁寧に授業でも取り扱う。また、授業でも繰り返し既習事項について触れ、既存の知識と関連づけて学習を進めていく。	記述式の解答に対する苦手意識を取り除くために、定期考査の記述問題や考察の記述に慣れさせていく。特に授業内では失敗や間違えを否定せず、自分なりの考えを言葉が稚拙でも書けるよう機会を重ねていく。また、学習した内容をアウトプットし活用できる場を増やしていく。	授業内で身近な事柄につながっている事例を紹介し、さらに自分で学習事項を拡げて考えさせる習慣をつけていく。また、その学習を拡げた生徒の内容を取り上げながら、学習の拡がりに対する面白さを感じさせられるような授業展開を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎・基本的な知識や技能の定着が多く分野で不足している。実験・観察を積極的に取り入れ、計算問題なども基礎的な問題から繰り返し行い、全体的な知識・技能の定着を進める。	観察・実験において、仮説や考察を自分の言葉で考え、表現する時間を設ける。内容ごとに、これまでの既習事項との関連性を考え、自ら仮説を立て、考えを深める時間を多く取る。	機械的な作業にならないよう日常の中にある科学について内容ごとに取り上げ、理解することの楽しさや面白さを実感させる。調べ学習や観察・実験等の協働する機会を増やし、自ら考え、行動できるように支援する。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識が各分野・単元を超えてつながるような声かけや発問、学習の機会を増やし、知識を繰り返し使うことができるよう、授業展開を工夫する。既習事項の復習の機会を設けるとともに、知識を相互に関連づけてより深く理解できるよう支援する。	引き続き、観察・実験を中心とした問題解決型学習を行う機会を設け、仮説を立て、一人一人が見通しをもち、結果をわかりやすくまとめ、結果から考察し自分の言葉やモデル図で表現する活動を継続する。考察の検討など、理科の見方・考え方を働かせ、少人数で協働して問題解決する活動を増やす。	引き続き、生徒が明らかにしたくなる課題を提示し、学んだことがどのように活用されているか紹介する。学んだことを生かして現象や日常生活での出来事を説明するような課題を設ける。学習支援としての足かけを行い、学びを振り返る機会を設けてメタ認知を促し、「できた」「気づけた」の体験を個々に与える。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2学期に行った合唱コンクールでは、ハーモニーのバランスを重視し、各クラス生き生きと表現することができた。
- ・歌唱や鑑賞において、歌い方の工夫や感じたことについて、自分の言葉で説明することができた。全員で合わせて歌う楽しさ・感動を味わいながら演奏できた。

(2) 課題

- ・表現活動の時間を最小限に留めながら、技能を高め、豊かな表現ができるようにする。
- ・鑑賞分野において音楽の諸要素を分析する力を向上させる。

2 観点別分析

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・速度や強弱など、楽譜に記載されている基本的な音楽用語について理解できる。音符の名前や長さ、音の高さなど、読譜力には個人差が見られる。 ・歌唱の技能は、発声と音程の習得に個人差がある。	・歌唱では、楽曲の構成と曲想を捉える学習を行っている。個人で分析することは、個人差が見られる。 ・鑑賞では、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えるよう学習をしている。音楽的特徴と感覚的に感じ取ったこととの関連を分析しながら鑑賞できると良い。	・歌唱では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多数見られる。パート練習を等の進め方を定着させ、仲間とともに練習を進め上達する楽しさを味わわせたい。 ・鑑賞や楽曲分析の学習では、板書を写す活動をきちんと行っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲の分析では、曲想をテクスチャやリズムなどの音楽的要素の変化から捉えることができる。 ・歌唱の技能は、ほとんどの生徒が正しい音程で歌うことができているが、一部の生徒は音程をとることが難しい。響きのある声で歌うための発声には課題がある。	・表現分野において楽曲分析での知識をもとに自分なりに曲想を捉え、どのように表現すると良いか、考えることができる。自分なりの表現をするために、技能との関連を考えていけるとさらに良い。 ・鑑賞分野において知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒はいるが、まだ難しい生徒も多数見られる。	・歌唱の場面では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多数見られるが、中には集中力の低下が著しい生徒もいる。個に応じた声かけを行い、仲間とともに歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。 ・鑑賞分野では、板書以外にも必要な情報を自ら書き留めるなど、主体的に学習に取り組もうとしている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲分析では、歌詞、強弱、曲想の関わりを考えたり、作曲者の意図と自分の考えを比較したりしながら、楽曲のよさを感じ取ることができる生徒が多く見られる。 ・歌唱の技能は、正しい音程で歌うことができる生徒が多い。響きのある声で歌うための発声には課題がある。	・表現分野において、歌詞と曲想の関わりの学習をし、歌うだけでなく内容をよく理解することができる。自らの知識をもとに分析を進めていけるとさらに良い。 ・鑑賞分野において、知覚・感受を関連させて楽曲を捉えることのできる生徒が増えてきている。	・歌唱の場面では、意欲をもって取り組もうとしている生徒が多数見られるが、中には自信のなさが見られるときもある。パート練習を経て、リーダーを中心に歌う楽しさを感じながら歌えるようにしたい。 ・鑑賞分野では、板書以外にも必要な情報を自ら書き留めるなど、主体的に学習に取り組む生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音楽用語は、楽曲の分析や歌唱を通して繰り返し学習していくことで、多くの生徒が基本的知識を定着できるようにする。 ・歌唱の技能については、2学期以降にパート練習を多く取り入れ、小集団の活動で自信をもたせ、響きのある発声ができることを目標とする。	・音楽的特徴を捉えるために音程、リズム、テクスチュア等の音楽的要素を知識として学習し、思考を広げていけるように支援する。また、友達の意見を参考にし、自分の考えに生かすよう助言する。 ・表現分野において、フレーズの特徴など感受したことの音楽的理由を探る活動を多く取り入れ、表現の工夫について考えていけるようにする。	・歌唱の場面では、パート練習の進め方を定着させ、リーダーだけでなくそれぞれが意見を出し、意欲をもって練習できるようにする。 ・鑑賞や楽曲分析の学習では、板書以外にも必要な情報を書き留めるよう促す。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽曲分析では、音楽の諸要素から曲想を捉える学習を積み重ね、より主体的に発想できるようにする。 ・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。良い響きで歌う生徒を誉め、模倣させる。	・表現の工夫について考えた内容を技能と関連させて学習する機会を増やす。 ・知覚・感受を関連させて楽曲を捉える学習を繰り返し行う。個々の生徒のワークシートの内容をクラス全体で共有する。	・歌唱の場面では、パートリーダーの育成を図り、良い集団の中で活動する楽しさや充実感を大切にする授業づくりをする。 ・鑑賞では、楽曲に興味・関心がもてるよう導入を工夫し、学習のまとめの際に曲のよさを感じ取ることができるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌唱、鑑賞ともに楽曲について自分の考えがもてるように、楽曲の知識を習得させ、作曲者の意図と自分の考えを比較できるようにする。 ・歌唱の授業では、腹式呼吸や頭声発声を常に意識して発声するよう促す。良い響きで歌う生徒を誉め、模倣させる。より生徒が主体的に取り組めるよう支援する。	・知識の応用し表現の工夫について考えたことを小グループやクラス全体で共有し、内容を深められるよう支援する。 ・鑑賞分野において知覚・感受を関連させて楽曲を捉えるとともに、音楽理論として知識と関連させて題材を提示する。	・歌唱の場面では、パートリーダーが中心となって進められるよう支援する。生徒の主体的な取り組みの中で互いに学び合える雰囲気大切にすること。 ・鑑賞分野では、引き続き主体的な取り組みができるよう促す。

令和6年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・区展や若木祭のみならず、校内で生徒の作品展示を積極的に行い、他に関心を持たせ、お互いの個性を認め合える環境作りを行うことができた。
- ・ICT の効果的な活用方法を模索し、デジタルと紙ベースの適した方法での使い分けやツールの理解を進めることができた。
- ・生徒の実態や個別に適した課題を設定し、生徒がねらいを基に見通しを持って課題に取り組める環境作りを行おうと努めた。

(2) 課題

- ・生徒の実態や授業内容を踏まえ、ICT も活用した効果的な評価方法について模索する。
- ・より幅広い生徒の実態に合わせて教材研究を行い、教材や作品についての研究を深める。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・小学校時に習った基礎的な知識を確認し、表現の幅をさらに広げるために、多くの素材や道具に触れさせ、習得させていく。	・生徒の発想を大事にしつつ、さらにより良いものにする為に、個々にあった声かけを行う。 ・鑑賞を深めるために、言葉として具体的に表現できるように促す。	・参考作品を提示するなど課題導入時の授業展開の工夫を行う。 ・振り返りシートを活用させ、自分を振り返り、次への課題につなげていく習慣をつけさせていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・今まで習得したものを深めながら、新たな素材や道具に触れさせ、それを応用する能力を養わせる。 ・パワーポイントを作成する等、ICT の活用を行い、わかりやすく伝える工夫を行う。	・様々な表現方法から生徒自身が選択し、試行錯誤ができる授業を行う。 ・形・色彩・構成などに意識を向けさせ、アイデアスケッチや言葉などで整理する活動を取り入れる。	・自分の思いを最後まで持続させ、創意工夫していけるような声かけを行う。 ・創作の意欲を高めるために、ICT を活用するなど相互の作品鑑賞を取り入れる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・見通しをもって表現活動できるように、時間を意識して計画的に制作に取り組ませる。 ・今まで習得したものを応用させ、新たな表現につなげていけるような活動の振り返りや提示を工夫して取り入れる。	・自分の取り巻く環境や自分の考えを振り返りながら、自分の思いを表現していけるように、ワークシートを工夫する。 ・様々な表現方法や作者の思いを深めていけるような鑑賞時間を多く取り入れる。	・制作途中にお互いの作品を見合う時間を設けることで、自己の作品を客観視しながら向上心を高めさせる。また自分の思いを表現することの喜びや楽しみを見いだせるような声かけを行う。

令和6年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・全単元で学習カードを用い、基礎知識の習得や技能向上に繋がる振り返りに活用することができた。
- ・体力と持久力の向上を目指し、2つの学年で駅伝大会を実施した。それに向け、生徒主体の取り組み場面が増え、また長い距離を走ることへの抵抗がやや薄れてきた。
- ・投力に関して、ハンドボールやソフトボールなど投球動作を必要とする種目を通し、正しい動作の指導や確認ができた。

(2) 課題

- ・今年度実施した令和6年度東京都体力テストに関して、1学年は握力、50m走、立ち幅跳び、持久走、2学年は長座体前屈、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、持久走、3学年は握力、長座体前屈、立ち幅跳び、持久走に課題が見られた。これらの結果から、各種目の学習の中で基本運動に繋がる正しい体の動かし方や、必要な体力、筋力が鍛えられる補強運動を取り入れており、今年度の体力テストの結果を見て今後さらに検討していきたい。また、どの学年も20mシャトルランの得点に比べ持久走の得点が低い傾向があるので、目標タイムに向けたラップ設定等ペースコントロール力をつける学習もおこなっていく。
- ・自分や相手の動きを見て、改善点やつまずきをみつけ、相手に伝わる具体的な言葉を用い表現することが苦手な生徒が多い。アドバイス活動を多く設定し、考え、実行、振り返りを行い成長に繋げる必要がある。また、教師が指導する際も端的な説明を心がけ、生徒の活動時間を多く確保していく。

2 観点別分析

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各内容とも必要な知識を習得し、技能の高まりを目指すことができる。男女共に持久力の向上と男子の短距離走のレベルアップ、また、男女共に水泳の特に平泳ぎにも課題がある。	・マナーを理解し、その範囲内で技能の習得に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。	・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。 ・自己の課題を把握し解決に向けた取り組みを行おうとしている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業で話した内容を理解している部分は多いが、記憶しておくことが課題である。 ・体力・運動能力は総括すると各種目で全国平均より低い。球技など様々なスポーツに取り組ませ、将来スポーツに積極的に行える土台を築く。	・自己の課題を解決しようと工夫する試みについて、考え、行動する態度が低いと感じる。また、自分の考えを伝えることにも課題を感じる。 ・個に応じて、道筋を考えた課題解決の方策を考えていくことや個別指導、教え合いの機会を増やしていく。	・保健の場面では、ポイントをまとめ記述ができる、発言を積極的に行えるなど生徒の2極化が顕著に表れている。 ・体育の場面では、苦手な生徒においてはポイントを明確に示すことで「わかった・できた」と感じさせ、積極的に運動に親しむ環境づくりを行う必要がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・個々の能力に応じた技能向上を目指すことができる。 ・短距離は全国平均よりも高い。 ・男女ともに柔軟性と投力に課題があり、筋力に加えて物を遠くまで飛ばすための身体の使い方を正しく身に付け、打つ動作へと繋げていきたい。	・ただ動くだけでなく合理的な身体の使い方について理解し活動することで技能習得や他者の記録を伸ばす力を身に付けることを目指す。	・良いプレーや発表を見て学び合おうとする生徒が多い。 ・授業に早くやってきて自主練など取り組む生が多い。 ・運動場面ではほとんどの生徒が活動的だが、準備や片付け話し合い活動では二極化が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・それぞれの課題を把握できるような支援を行い、個人の能力を伸ばしていくことができるように学び合いを行うことが必要である。	・ICTや学習カード等を活用し、課題解決の方策を工夫できるように多くの支援を与える。	・学び合いを積極的に導入し、生徒が主体となって学習活動に取り組むことができる環境をつくる。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識を身に付けるためには、私生活と関連付けて理解しやすく指導を行っていく必要がある。 ・技能に関しては、指導の際技のポイントを明確にしていく。また、客観的に自分の演技を見ることができるようタブレットを使用して理解を深めていく必要がある。	・論述やレポートの作成、発表を通じて、自分の考えを伝える。 ・グループでの話し合いを通じて他者理解に努め、まとめ、表現していく。 ・考え方がわからない場合は個別に指導を行い、サポートを行う。	・現在の自分の力を生かしながら、課題を見つけその解決にむけての練習や学習を考えていくという学習過程と生徒一人一人に身に付けてほしい力をしっかりと教え込んでいき、その上で自主的に学び方を身に付けていくという学習過程とを実態に合わせ取り入れていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
バレーボールやラケット種目で打つ動作を学ぶ前に、投フォームについて学び、そこから打つ動作に繋がることを理解できるようにする。	・毎時間の学習カードの振り返りやペア活動を通して自己の課題を発見し、その解決に向けて工夫し、積極的に表現活動を行っている。	安全面に配慮し、可能な限り教師からの指示で動く場面を減らしていく。生徒自身が周りを見て、今自身がどうすればより良くなるか考え行動する習慣をつける。

(様式例)

令和6年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・タブレットを用いて課題提出を工夫し、調べ学習で深い学びを行うことができた。
- ・家庭で取り組むことができる課題の提示など、家庭で活動する場を設定できた。
- ・

(2) 課題

- ・積極的に授業に取り組む環境を整えることができたが、問題解決能力を高めるため、生徒同士（グループワーク）での活動を増やすことが課題である。

2 授業改善のポイント（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) 木材加工では、平面から立体をイメージする力を身に付けられるよう課題を検討し、作品製作の手順を理解させる。 (家) 書画カメラ・視聴覚教材・Web 見本等わかりやすい授業をさらに工夫する。	(技) 製作の単元のなかで、実習内容を深く思考する機会をつくるとともに、生徒同士で活動する場を設ける。 (家) 衣服購入のポイントや、住まいの安全等の内容で思考判断につながる教材や発問を工夫するとともに、グループワークを設定する。	(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。 (家) 作品製作では時間内により良いものを効率よく製作させる。提出物を確実に出させる。学習内容に興味関心を持たせる工夫をする。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) 電気の学習を通して、家庭でも安全に電気を利用することができるように理解させる。ラジオの製作を通して、知識と技術の定着を図る。 (家) 書画カメラ・実物見本・視聴覚教材・Web 教材等を活用しわかりやすい授業をさらに工夫する。タブレット使用で関心を持って知識を深める工夫をする。	(技) ラジオ製作の後で、増幅回路について学習し、実際の作業にあった内容の学習をすることで、深く思考をする機会をつくる。 (家) 知識を生活の中で活用し、深く思考をする機会をつくる。テーマを決めて実習に取り組むなど工夫をする	(技) 授業時間内に、説明・実習・片づけを行い、実習の時間規律を確立する。 (家) クロムブック使用を取り入れ、積極的に生活に活かせる学習になるように工夫する。集中して作業に取り組む用に声をかける。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(技) キーホルダーの製作に合わせて、金属加工の方法を覚えるとともに、ICTを積極的に使い、知識の定着を図る。 (家) 幼児との関わりについて、視聴覚教材・書画カメラ・見本等でわかりやすい授業や、技能習得の工夫をする。	(技) プログラム制作の課題の処理を行わせ、情報の技術を通して、課題を解決する力を育成する。 (家) おもちゃ製作や幼児の遊び体験などを通して習得した知識と照らし合わせて深く思考をする機会をつくる。	(技) グループワークを積極的に行わせて、主体的に授業に参加させ、意欲向上を図っていく。 (家) 作品製作やノートを活用などを通して指導し、幼児に関連ある調理実習も加え、積極的に幼児を理解する意識を高めるなどの工夫をする。

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立貝塚中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業の始めに授業プランを明確に伝えることにより、見通しをもった学習ができています。
- ・Q&A等の反復練習をすることにより、話すスキルが向上し、即興で話す際のバリエーションが身に付いてきた。

(2) 課題

- ・即興性のある話題について話すことは難しく、苦手意識を持った生徒も多いため、授業内でそのような場面を設定するなどの工夫をしていく。
- ・英文を素早く読んで、内容を正確に把握したり、質問に対して答えたりする力を育成する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	ほぼすべての項目において、平均正答率が全国平均を上回っている。リスニング分野の正答率が特に高い。その一方で、ライティング分野の正答率は全国平均だけでなく、目標値を下回っている項目もある。		
第2学年	全ての項目において、平均正答率が区や全国を上回っている。特に聞くことに関して特に高い正答率となった。	多くの項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。英文を完成させる問題で正答率が低い箇所があったため、改善するために意識して指導にあたる。 (第1学年時)	
第3学年	書くことの項目が区や全国平均を上回っており、改善が見られる。しかしながら、聞くことの内容理解については平均を下回っているのので改善に当たる。	多くの項目において、平均正答率が全国の平均を上回っているが、文法の正確さという点で一部正答率が低い箇所が見られる。今後は文法の正確さについて厳しくする場面を設けて指導にあたる。 (第2学年時)	全ての項目において、平均正答率が区や全国の平均を上回っている。記述問題に関して正答率が低い箇所があったため、意識して指導にあたる。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学年全体としては、全ての問題において目標値と全国平均を上回っている。	英作文の問題が全体的に平均を下回る問題があり、苦手な部分となっている。ほかの思考・判断・表現の問題の正答率が高いことから、自分で考えて文章を書くことに課題があると考えられる。	英作文の問題の正答率が全体的に低い。英語の知識を活用して自己表現することに慣れていない生徒が多くいることが推測できる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対話文やメールといった英文を読み取る問題に課題に関して課題がある。読み取るための語彙力や文法力も必要である。	英作文を書く問題に対して文章をしっかりと書くことができるようになってきた。対話の流れに合った作文を書くことは苦手としている。	該当する問題で正答率が大きく上昇していることから外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的で意欲的に学習に励んでいると考える。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニングの内容理解の項目が、区と全国平均を下回っており、課題があると考えられる。	場面に応じて書く英作文が目標値から7.4下回っており、課題があると考えられる。	目標値に達しており、区や全国平均を上回っている。今後も主体的に取り組める指導を行う。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動としてBINGOやQ&Aシートを使用し、単語や熟語、定型文のインプットを繰り返し行う。またデジタル教科書やALTを活用し、英語を聞く機会を増やす。	自分の考えを表現して英文を書いたり、話したりする活動を多く行う。またALTとの連携を図り、即興生のある会話の練習をしていく。	生徒が興味・関心を持てる教材・題材を準備して、英語に対する関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度を向上させていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
帯活動として単語や熟語を用いたビンゴや、Q&Aシートを使用した定型文の反復練習を取り入れ、基礎的な学力を定着させる工夫に努める。またALTと協力して、日常的に英語を聴く機会を設定する。	ALTとの連携を図りながら、自分の考えや感想を伝え合うなど、即興で英語のやり取りをする能力の向上に努める。前後の関係を考えながら表現する力を向上させる。	間違いを恐れずに関心のある事柄について、簡単な文や語句を用いて書くことができるよう、書く機会を増やす。苦手意識を持っている生徒に関しては個別でサポートをする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
リスニング教材に取り組むときやALTが話した後など、内容を確認する時間を設定し、生徒の内容理解を深める。	USE Writeのページを用いて、場面や状況に合った英作文ができるように指導する。	引き続き、相手を意識したコミュニケーションを充実させる。また、活動の機会を増やすことで、生徒の主体性を高めていく。

